

〈第13回〉御幸西子ども会（2） 「クリスマスわくわくクジ引き大会」

育成会会長 濱口伸子

令和2年12月6日（日）『クリスマスわくわくクジ引き大会』を行いました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、皆が参加できるイベントがなかなか出来なくなり、せめてクリスマスだけでも子ども達に楽しいひとときを過ごしてほしいなと思っていました。しかし、例年のように一堂に会してのクリスマス会は難しいので、プレゼント渡しだけでも行うことにしました。

そこで、西谷副会長より、「ヒモを使ったクジ引きはどうか」という提案を頂き副会長自らクジ箱を作ってくださいました。男の子用は今話題の鬼滅の刃・炭治郎、女の子用は禰豆子仕様になっています。

男の子用クジ箱（炭治郎）

女の子用クジ箱（禰豆子）

プレゼントの山



クジ引きセット

男の子用プレゼント、女の子用プレゼント



コロナ禍の中この大会を行うにあたって、本来なら公民館でするところを屋外の山田神社で行いました。クジ引きは学年ごとに時間差で行い、引く前には手の消毒を行い、マスク着用も徹底しました。



拝殿の飾り

境内でのクジ引き





密にならないように 学年ごとに時間を決めて クジを引きます



子どもサンタさんがお手伝い



どれにしようかな？

⇒

これを引こう！

⇒

良いのが当たりますように ㊄



子どもサンタも大活躍でした

子どもたちも大変喜んでくれたのでやってよかったです。このクリスマス会が無事出来たのも保護者の皆様、役員の皆様の協力のお陰です。有り難うございました。



プレゼントを沢山もらいました



最後に秋の名残を少し楽しみました



(写真の時だけマスクを外しています)

御幸西子ども会会長 村田壮良(むらたそら)君より

『コロナ禍の中で沢山のイベントが中止になって、この会を出来るか心配だったけどアイデアを出してもらって、クリスマス会での接触をしないようにヒモを引いて番号が出て、その番号の商品がもらえる千本引きという方法でのくじ引きを作ってもらったり、千本引きをする前に消毒してもらったり、学年ごとに時間を分け密にならないように工夫をして、クリスマス会を行いました。』

もらったシャボン玉で遊んだりして、嬉しそうにしていたのでコロナ禍の中でもこの会が実施できてとても良かったと思います。』



事務局から

事務局長 白石和典

- 1 お忙しい中に行事の直後に、原稿と沢山の写真を提供して頂き有り難うございました。
 コロナ禍で主に室内のいろんな行事が出来なくなる中で、素晴らしい活動が出来ました。コロナ禍⇒即中止ではなく、室内⇒外で、そして一堂に会しないでプレゼントをあげる工夫をされました。
 しかも、ただ配るのではなくゲーム性を取り入れて「くじ引き」で、更にそのくじも単なるくじではなく、鬼滅の刃仕様の箱に沢山のひもが通してあり、そのひもを引く楽しいくじでした。ひもの先に番号札がつるしてあるのが見えてはいるけど、どのひもかは分からないので、ひもを引っ張るとき子どもたちは「わくわく」したことと思います。大変工夫された面白い仕組みでした。
 クリスマス飾りもあり、子どもサンタもいていい雰囲気に盛り上がったと思います。
- 2 その他、マスクを付けて密にならないようにし、くじ引きは学年ごとに時間を分けてあり、引く前に手の消毒をするなど、コロナ対策にもよく配慮してありました。例年とは異例づくめのクリスマス会だったかも知れませんが、逆境をチャンスと捉えての対応により、新鮮な、しかも思い出に残るクリスマス会になったのではないのでしょうか。
- 3 役員の皆様が、子どもたちに楽しんでもらおうという思いがこんな素晴らしい行事になったと思います。皆様のチームワークと努力に敬意を表します。これからも益々ご活躍ください。